

令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立志手原小学校
-----	------------

1 学校教育目標

自ら学ぶ意欲と方法を身につけた心豊かな志手原っ子の育成

2 今年度の学校重点目標

- ① 基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける。
- ② 学校全体で協働して授業改善を進める。
- ③ 健やかな体をつくるための力を育む授業を進める。
- ④ 豊かな人間性や社会性を培い、ともに伸びる姿勢を育む。
- ⑤ 地域の素材を活かした授業づくりに取り組む。
- ⑥ 安全で豊かな教育環境の実現を図る。
- ⑦ 家庭や地域と課題を共有し、子どもの健やかな育ちを図る。
- ⑧ 適正な予算執行に努めると共に、明確な会計管理を徹底する。

3 総合的な自己評価

学習指導では、研究と結びつけて指導を行い、ipad を通常の学習ツールとして取り入れた授業を全クラスで行うことができています。ほとんどの児童がアンケートに授業の内容がよくわかるようになったと回答しているなど、学習に前向きな意見や向上が見られる。その一方で、基礎学力をつけてほしいという保護者の願いもあり、家庭での学習でも活かすことができる学び方も含めた指導を充実させていきたい。また、生活指導では、日常の生活の中から子どもたち一人一人の様子をみとり小規模校ならではの取組ができています。固定化された人間関係の中で自分の意見をしっかりと伝える子やまわりの子にやさしくできる子を引き続き取り組んでいきたい。

4 総合的な学校関係者評価

今年度も新型コロナウイルス感染症に悩まされ学校運営等に制限がかかり、やりにくいところがたくさんあったと思うが、教職員の皆さんの工夫等により、すばらしい活動をしていただいたと思います。アンケート結果を見ても、教師の評価が一番厳しくて、保護者、子どもの評価という順番になっている。よりよい教育をしようと厳しく見られていることが分かる。保護者の願いは、基礎的・基本的な内容が子どもに身につけているかとか挨拶や言葉遣いがしっかりと出来ているかなど基本的なところである。家庭で協力していただかなくてはいけない部分もあるが、連携を強化していただき、よりよく生きることができる志手原っ子を育成していただきたい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標 教育方針	教育目標や重点目標を意識しながら、達成に向けて教育活動に取り組むことができたか	目標や重点事項を意識して学習面・生活面とも具体化して取り組み、子どもたちもその目標に向かって頑張っている。高学年が中心となり他学年と一緒に交流し、共に成長することができている。一緒に学んだことを生活に活かしたり、意欲を継続して深く物事を考えたりして創造力をつけていきたい。	小規模校の強みを活かして高学年のリーダーシップを育てながら子ども一人一人の力を発揮できるように指導を充実していく。さらに、授業の中で自分の考えを話す機会を増やし、仲間との交流の中で自分の考えを深め物事に対して追究していく姿勢を育てながら新たな解を探っていくなど創造する力をつけさせていく。また、期待する児童像の実現に向け家庭との連携を強化していく。	小規模校のよさを活かして一人一人をこれまでと同様、丁寧に見ていただきたい。行事も家庭や地域を巻き込んで一緒に活動をしていき、志手原のよさを子どもたちに伝えていきたい。
	学校教育目標への取り組みを情報発信し、保護者や地域に周知することができたか	定期的に学校通信や志手原 Diary、学年通信を発行し、情報を発信している。さらに、区長会を通して学校通信を地域に回覧したり、HP に掲載したり、学校地域運営協議会委員に配付したりしている。また、志手原小の研究の取り組みを電子ブックという形で保護者にも知らせ好評を得ている。	運動会・音楽会・研究大会など学校行事や PTA 行事の工夫・改善を図り、保護者や地域・学校支援ボランティアなど各種団体と連携を図りながら持続可能な取り組みを行っていく。	学校日より定期的に届けていただいているので学級の様子はある程度分かるが、実際に参観したり、一緒に取り組んだりしたい。新型コロナウイルス感染症の状況がおさまったら地域や各種団体との交流を深めてほしい。
教育課程 学習指導	週時程や学校行事の年間計画は、内容や取組時間が適切であったか	子どもが活躍するための行事、授業時数確保、特別な環境下で実施の観点で行事の精選・工夫をした。行事の内容や実施時期は適切であり、ほぼ 100%の児童が「行事をがんばった。」とアンケートに答えており、達成感を満たしている。	児童数の減少に伴い、共に活動することで、互いに学び合い、高め合えるような工夫・改善をしてきた。昨年度に引き続き音楽、図工、体育、家庭科の各教科で、それぞれ1・2年、3・4年、5・6年の合同授業を実施している。子どもたちが、達成感とともに意欲的に取り組んでいけるように、小規模校のよさをいかした魅力的な行事や授業づくりについて、さらなる工夫改善に努めていく。	子どもが活躍する機会をなるべくたくさん作っていただき、志手原小学校ならではの取組を行ってほしい。行事は、少人数ながら大変工夫され、迫力のある行事だった。保護者だけでなく地域の方にもぜひ見ていただきたいかった。
	基礎的・基本的な内容を習得させ、思考力・判断力・表現力を高め、確かな学力の向上に取り組むことができたか	授業に対して子どもたちは日々学習に前向きに取り組んでいる様子が見える。一昨年度から研究とも関連し、情報機器を積極的に活用して様々な工夫した授業を行っている。その結果、思考力や判断力・表現力を培いながら、情報活用能力を育成し、確かな学力の向上に努めることができた。	各教科における授業の工夫や研究と関連させて、思考力や判断力・表現力を培い、情報活用能力の一層の育成に努めていく。また、新指導要領の趣旨を踏まえて教育課程の編成をより子どもたちの実態に沿ったもの改善していきたい。	授業で情報活用能力を高められているが、基礎的・基本的な内容も大切にして取り組んでほしい。朝学習やがんばりタイム等で力をつけているので学力の向上に向けて継続して取り組んでほしい。
	命と人権を大切にすることを充実させ、豊かな心を育む取組ができたか	年間を通して、「やさしさの花」の取り組みを行い、周りの人のよい姿を意識するように働きかけを続けているため、普段からその意識で、周りの友達や他学年の人を見ようとしていることが感じられる。少人数の学校であるので、人間関係が固まってしまう傾向があるので、常に児童の人間関係や友達に対する見方が固定してしまわないように、気をつけている。	「やさしさの花」の取り組みは今後も続けていく。道徳の授業や、人権にかかわる教材の授業を大切に、教材を通して自分たちの生活や価値観を見直す機会をたくさん設定していきたい。また、普段の生活の中で、子どもたち一人一人が、自己を開放し、自分自身でいいのだと自信をもって生活していけるよう、いろいろな活躍の場面を設定して、周りの児童とつなぎ「自己有用感」「自己肯定感」を持たせる学級経営を心掛けていく。	子どもの小さなサインも迷わずに先生方全員で丁寧に見てほしい。「やさしさの花」は友だちのよいところを見つけていく取組であるので引き続き取り組んでもらうと共に他の人や年下のものを大切にする志手原っ子になってほしい。
	体力の向上や毎日を健康で安全に過ごすための教育を充実させ、健やかな体を育む取組ができたか	高学年を中心に朝の運動を実施し、持久走やなわとびなど体力向上に取り組んでいる。キッピー体操も取り組んでいる学年があり、休み時間では、外遊びも盛んである。また、健康チェックカードを毎朝点検し、保健だよりを中心に保護者への注意喚起も行っている。	朝の運動をはじめ縄跳びなど全校に広げていきたい取組である。体育委員会を中心にさらに活性化していきたい。また、健康チェックカードに「はみがき」の項目を入れ、給食後の「はみがき」とともに口腔衛生指導について保護者に協力を依頼しながら、取組を進めていく。	健康は何よりも大切なものなので、高学年を中心に朝の運動をしているのはよいことなので、ぜひ他の学年にも広げてほしい。また、はみがき指導など健康チェックは家庭とも連携してやっていただきたい。
研修・研究	研究テーマに即した ICT を活用した授業づくりの工夫ができたか	各授業者がアイデアを膨らませ、どの場面での活用が効果的によいか考え、ICT を活用した授業づくりの工夫ができ、子どもたちも学ぶ方法を身につけ意欲も高まった。	来年度も引き続き ICT を活用した授業を展開し、さらに可能性を発見したい。また、志手原小学校の子どもたちに合致したカリキュラムの作成を行ってほしい。	コロナウイルス感染症のため子どもたちの学んでいる姿があまり見られないのは残念であったが電子ブックという形で研究の一端をみることで、先生方の取組に感謝している。これからも ICT を活用するとともに体験的な活動にも取り組んでもらいたい。
	子どもたちは、仲間とのつながりを大切にし、学びを深めていくことができたか	ipad を話し合い活動の中心に置くことで子どもたちの活発な意見交流につながることができた。そして、自発的に疑問や意見をのべ、学びを深める姿が見られた。	ICT を活用した授業を展開していくことと具体的な体験活動を展開して実感を通して学ぶこれまで培ってきた教育も充実させていきたい。	

生活指導	気持ちのよい挨拶をしたり、人を思いや った場に応じた言葉遣いができたりする よう指導できたか	児童は、学校のきまりや、地域でのきまり を良く守って生活している。新型コロナウ イルス感染拡大防止のため、校外の方と 関わる機会が減り、あいさつをする機会も 減った。言葉遣いに関しては、友だち同 士では悪い面も見受けられるが、先生や 地域の方々に話す時には、丁寧な言葉 遣いで話せている。高学年の場に応じた 適切な言葉遣いが、低・中学年の児童の 手本になっている。	引き続き、自分から挨拶することの良さや必 要性を絶えず意識させる。教師も挨拶をす ることを意識し、継続して声かけをしていく。ま た高学年が率先して挨拶を広めていく取り 組みを児童会が中心となって考えていく場 の設定を工夫する。 校内だけでなく、家庭や地域でも時と場合 に応じて気持ち良く挨拶できるように、保護者 の理解や協力を得ながら、連携して挨拶や 言葉遣いの取組を進める。	心の通ったあいさつができるように引 き続き取り組んでほしい。また、地域 の課題として家庭とも連携して挨拶 をすることや丁寧な言葉遣いを使うよ うに取組を進めていきたい。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、 児童一人一人の悩みや不安に寄り添 い、深い児童理解に根ざした指導がで きたか	子どもの人数が少ないため、教師は学年 を問わず、子どもたちの様子や課題、支 援の仕方を共通理解し、きめ細やかな指 導をする体制づくりをしている。感染不安 で登校できない児童や不登校の状態が 長くなる児童も見られた。リクエストボッ クの設置やプログラミング等、学校内で 楽しめることを実施できた。	子ども一人一人との心のふれあいを大切に した指導を行い、教師との信頼関係を強化 することで、相談しやすい雰囲気を作って いく。また、いじめアンケート等の実施により、 子どもたちの状態や心の様子を探り、困った 児童を見逃さずに、声をかけ、教職員全体 で見守っていく生活指導の体制を継続す る。また、保護者がいつでも相談できるよ うに、普段から連携を密にして、何でも相談 できるよい関係を構築していきたい。さらに、状 況に応じて、教師だけでなく学校カウンセラ ー等の外部機関にも気軽に相談できる体制 を作っていく、学校、家庭、地域が連携し て、子どもたちの成長を見守って行けるよ うな体制づくりを推進していく。	「いじめは絶対にいけないこと」「い じめを決して見逃さない」という気持ち をもって子どもの1人1人の様子を みていただきたい。また、保護者とも 連携してだれもが楽しく学校に登校 する志手原小学校の雰囲気を継続 して行ってほしい。
	食育を通して、子どもたち自身を見つめ 直し、生活改善に取り組み、生活習慣を 向上させることができたか	食育については、栄養教諭を中心に給 食の時間を活用し指導を行っている。養 護教諭と児童の発育の確認を行い、食 事の量の調整方法や基本的生活習慣等 の指導を行った。これらの取り組みによ り、児童一人一人の適切な食事摂取量 への気づきや、食習慣の意識の高まりが みられた。	基本的な生活習慣や食事の習慣につ いて、栄養教諭や養護教諭そして担 任や保護者と連携し、さらに取り組み を強化していく。	早寝早起きや朝ごはんをしっかり摂 ることや栄養のバランスを考えて食 生活を送ることは子どもたちにとって 大切なことである。栄養教諭や養護 教諭の先生方が中心となって健康を 考えていくことを教えていただきこ とは大変よいことである。家庭もぜひ協 力して取り組んでほしい。
学校・家庭・ 地域との連 携	志手原校区地域づくり協議会や学校支 援ボランティア、地域の人材を活用した 教育活動を積極性に取り組むことが できたか	新型コロナウイルス感染拡大防止のため 地域の方々の活動はほとんどできな かったが、朝の見守り活動や放課後子ども 教室、図書ボランティアなどできるところ で継続することができた。6年生から学校 を代表して各団体へ感謝の手紙を渡し、 見守っていただいている地域の方々に 感謝の気持ちを伝えることができた。	学校支援ボランティアや地域の人材 活用を新型コロナウイルス感染症が治 まってきたら、交通安全教室や米作り など学習活動を復活させ、協力をいた だき、共に取り組みを推進していき たい。	感謝の手紙をいただいたりしたが、 なかなか活動できなかったのが正直 なところである。コロナウイルス感 染症が収まったら積極的に連携を図 ってほしい。
	「地域とともにある学校」づくりを推進し、 課題を共有して、共に子どもたちの教育 に取り組むことができたか	朝学習に子どもたちの到達度や学習の 内容に応じて取り組んでいる。また、「ひ ょうごがんばり学びタイム」を活用し、基礎 学力の定着を重点的に行ってきた。家庭 や地域とは協力をさせていただいて いるが、家庭での学習面について「家庭学習 の手引き」の活用で課題が残っている。	「家庭学習の手引き」の運用について 年度当初に共通理解をして年間を通 して指導していくことができるように していきたい。また、宿題を反復練習 だけにならないように、調べ学習や意見 をまとめるなど、自分の考えを表現 したり、思考力を働かせて取り組める ものを取り入れたい。	PTA や地域づくり協議会との連絡は とれているが、課題に対しては実際 に取り組めていない。子どもたちの 教育については、地域も協力を惜し まないが、家庭学習については、習 慣化が大切なので、アンケートでも 子どもが達成できていると実感できる ように取り組んでもらいたい。